

2019年12月31日

## 株式会社レオパレス 21 臨時株主総会の招集請求について

株式会社レノ  
代表取締役 福島啓修

株式会社エスグラントコーポレーション  
代表取締役 池田龍哉

株式会社レノ及び株式会社エスグラントコーポレーション(以下「弊社ら」といいます。)は、今年11月現在、共同保有者分を合わせて、株式会社レオパレス21(以下「レオパレス」といいます。)の発行済株式総数の14.46%を保有しています。

令和元年12月27日に、弊社らは、株式会社レオパレス21に対し、現任の取締役10名全員の解任と弊社推薦の取締役3名の選任に関する臨時株主総会の招集請求書を提出しました。

以下、弊社らが臨時株主招集請求書を提出するに至った経緯及び考えをお伝えさせていただきます。

レオパレスは、同社がこれまで施工した多数の共同住宅において建築基準法上の不適合箇所が存在すること(以下「施工不備問題」といいます。)が発覚して以来、同社を取り巻く環境は非常に厳しくなっており、その状況は現在も継続しています。一刻も早く社会からの信頼を回復し、業績を立て直していくことが、アパートオーナー及び入居者を始めとする全てのステークホルダーから求められている状況です。

同社が信頼回復のために成すべきことは、透明性のある積極的な情報開示を行うことと建築不備問題を終結させることです。弊社らはこれまで別紙「レオパレスとの協議経緯」の通り、同社に対し繰り返し要望を述べてきました。

しかしながら、弊社の要望に対する対応はなく、従前と変わらず大幅な業績の下方修正を繰り返し、更には施工不備問題の是正スケジュールについても当初計画から1年以上の遅延という信じ難いスケジュールを発表する始末です。

加えて、第46期に実施された自己株式の取得について、施工不備問題の発覚以降、取締役であれば適切にその損害を想定すべきところ、緊急性もない自己株式の取得を強行し、その直後に大幅な下方修正を行っています。

レオパレスは、今期から経営陣を刷新し、施工不備問題の早期解決と業績の早期回復を目指すとのことでしたが、従前と何ら変わりのない後手に回った開示での業績の大幅な下方修正を行い、施工不備問題についても信頼できる明確なゴールが示されていません。更には現経営陣10

名の内4名が自己株式取得決議を行った時点での取締役であることから、経営者として適切に将来を見通す力が欠けていると判断し、経営陣の大胆な刷新が同社には不可欠であると考えたものです。

今回の経営陣の刷新につきましては、透明性と公平性を重視すべきだと考えておりますので、他の大株主からも取締役の推薦があった場合には柔軟に対応し、提案を差し替える考えです。

なお、本臨時株主総会の招集請求に関しましては、別紙1「レオパレスとの協議経緯」記載の通り、過半数を大株主から推薦を受けた社外取締役とする必要性について繰り返し説明のうえ、来期以降の体制として定時株主総会の議案とする旨のお願い(以下「弊社ご提案」といいます。)をしておりました。

これに対して、レオパレスは今年16日に「コーポレートガバナンスの向上を目的とした取締役会の構成に関する方針のお知らせ」(以下「16日リリース」といいます。)を公表しました。取締役の過半数を社外取締役とするという内容となっておりますが、社外取締役の候補者については、「当社の事業の特性を踏まえつつ、お客様およびステークホルダーの皆様からの信頼回復を図る観点から検討して参ります。」するという表現に留められています。

取締役の過半数を社外取締役にするというだけでは、現状の取締役会に社外取締役が新たに1名加わる、または社外取締役でない取締役が1名退任するだけでその要件を満たすことができるため、現状の取締役会と実質的に何ら変わりはなく、コーポレートガバナンスの向上とは到底言えません。

施工不備問題の一日も早い終結と社会からの信頼回復、それらに伴う業績の回復は、企業価値向上を真摯に考えることのできる株主の目線を有した取締役が過半数になってこそ可能になるものだと弊社は考えております。

弊社の提案に対して会社としてどのように考えているか12月19日までに取締役を代表する宮尾社長からご説明をいただくか、12月20日までに弊社ご提案に沿った内容のリリースをいただくか、いずれの対応もなかった場合には臨時株主総会の招集請求を行う旨を伝えておりましたところ、上記の説明期限が過ぎた20日の夜に面談希望の連絡を受けました。

これまで同様の時機を逸したやり方を残念に思いながらも、1週間の協議期間を設けてレオパレスと協議することとなりました。

23日に初回面談を行い、宮尾社長に弊社の考えを説明すると共に、いつでも取締役会に出席し、取締役全員に対して説明をする準備があると伝えました。その後、25日にレオパレスから弊社に別紙2のリリース案が届きました(取締役会における承認前のものであるため、内容については変更される可能性があるものの、27日に公表予定であるとの説明でした。)。弊社としては、ステークホルダーにとって喜ばしい内容であり、積極的に推進すべきものと考える一方で、これまでの経緯を踏まえると漫然と約3か月もの間待ち続けることは難しく、弊社もその検討に関与した方がよいのではないかと伝達し、27日までに面談で協議したいと要請しました。

ところが、レオパレスは30日までの1週間を協議期間としたことを無視し、「社長の都合が合わない」「28日以降は休業日である」などと述べて、初回の23日を最後に再び面談することさえも拒

否したため、弊社らは、対話すら回避する現経営陣にこれ以上経営を任せることはできないと判断し、12月27日に臨時株主総会招集請求書を提出いたしました。

また、レオパレスは、弊社が臨時株主総会招集請求書を提出する意向を示した後、前記リリース案について、公表を行わないと言い出しました。弊社としては、レオパレスは株主などのステークホルダーに適切な情報開示を行うべきであると考え、公表するよう求めましたが、受け入れられることはありませんでした。

このような会社の将来に大きな影響を及ぼす可能性のあるものについて公表を行わないという姿勢そのものが現経営体制におけるコーポレートガバナンスの欠落であり、改革していかなければいけない点であると考えております。

弊社らは、レオパレスの経営陣を刷新することにより、レオパレスに対する社会からの信頼を取り戻し、その業績を回復させるべく、最善を尽くす所存です。

敬具